



真言密教の総本山・高野山と熊野本宮を最短距離で結ぶ参詣道。石仏や地藏等、昔の古道の雰囲気数を多く残している。

三枚のお札

ふだ



文・山崎しげ子

世界遺産の「紀伊山地の霊場と参詣道」。その中の熊野古道小辺路は、高野山と熊野を結ぶ道だ。高野山を出ると、道はほどなく奈良県の南西部にある吉野郡野迫川村に入り、そのまま村を縦断する。山また山に囲まれた、緑深いこの村に伝わるお話――。

昔、寺に和尚と小僧がいた。ある日、小僧が山へ栗拾いに行くと、お婆が現れ、「わしの家に来い。栗飯をどっさり食わしたろ」と言った。寺に帰り、その話をする、和尚

は「そりゃ、きつと山姥や。行ったらあかん」と言った。だが、小僧はどうしても行くと言う。和尚は有難い呪文を書いたお札三枚を持たせた。小僧は山の中の婆の家でおいしい栗飯をどっさりよばれ、眠り込んだ。婆は、「こりゃ、うまいこといったわい」と、包丁を研ぎ始めた。

小僧が小便に起きた時、折からの雨だれの音が、「婆に食われる。はよ、逃げよ」と聞こえた。小僧は慌てて便所に入り、柱にお札を一枚貼り付け、窓から逃げた。

婆が便所の外で、「小僧、まだか」と言う、お札が「まだや」と答えた。やがて、逃げる小僧に婆が追

つくと、小僧が二枚目のお札に「川になれ」と言い、また逃げた。だが、婆は川を渡り、追いついてきた。小僧は三枚目のお札に「砂山になれ」と言い、寺に逃げ帰った。

その砂山をのぼって追いついてきた婆に、和尚は「まあ、そこに座って餅でも食え。どうだ、二人で化け比べしよう」と言った。欲深い婆は大入道に化けたが、和尚が「小さくは化けられまい」と言うと、こんどは小豆に化けた。和尚はその小豆を餅に包んで食べた、という。

小辺路は、熊野古道の中でも屈指の険しさで知られる。果てしなく続く高い峰々、震えるばかりの深い谷、山姥が現れそうな寂しい峠道。村は今も、山のどこかに山姥が隠れているような、そんな昔話を彷彿とさせるのどかで静かな山里である。

たいらのこれもり

平維盛 歴史の里



平清盛の孫であり、源平の戦いで敗れた維盛が最期を迎えたと伝えられている地。里人が大変な美男子であったと言われる彼をしのんで建てたという維盛塚が残っている。(→P.13平維盛の大祭)

物語の場所を訪れよう

「野迫川村」へは…

【車の場合】

- ・五條市から国道168号線を南下し、同市大塔町小代下を右折して村内へ
- ・十津川村から国道168号線を北上し、五條市大塔町小代下を左折して村内へ

【電車・バスの場合】

- 南海高野ロープウェイ・高野山駅から南海りんかいバスで村内へ

野迫川村

◎野迫川村地域振興課
☎0747・37・2101